

えりも町本町地区において採集した海藻類について (短報)

中岡利泰¹⁾・吉田晴香²⁾

博物館学芸委員実習の一環として、えりも町本町地区えりも港湾内の漁船係留ロープ (満潮時に調査、図1.)、および港湾南側平磯 (えりも町字新浜、図2.) において、海藻類の調査を実施したのでここに報告する。なお、磯での採集は潮間帯において実施し、現地で種名がわかるものは採取せず記録にとどめた。調査日は、2005年8月13日および18日である。確認できた海藻類を表1、表2、それぞれ示した。

係留ロープ (図1.) では11種、磯 (図2.) では18種の海藻と1種の海草を確認することができた。係留ロープ上に確認されたカラフトトロロコンブは、すでに1996年に川嶋昭二氏によりその分布が確認されている (川嶋、未発表)。

係留ロープと磯の共通種はアナアオサ、ヒバマタ、アカバギンナンソウ、エゾツノマタ (クロバギンナンソウ) の4種であった。この4種の分布環境は、潮間帯~潮間帯下部の岩上とされている。係留ロープ上のみで確認された7種 (ヒラアオノリ、ナガアオサ、ピラエラ、カラフトトロロコンブ、ツルツル、ダルス、イギス) は、主な分布環境が潮間帯上部から潮下帯下部までと範囲が広がった。磯のみで確認された15種 (タマジユズモ、ツヤナシシオグサ、マツモ、ミツイシコンブ、エゾイシゲ、ウミトラノオ、モサカ、ヒライボ、イソキリ、ビリヒバ、フノリ、アカバギンナンソウ、エゾツノマタ、キブリイトグサ、フジマツモ、オオソゾ、スガモ) はすべて潮間帯を主な分布環境とする種であった。

海藻の分布には、水深 (潮位)、海流の強弱、海水の栄養などが複雑に関係していると考えられている。係留ロープ上には潮間帯~潮間帯下部の岩上に



図1. えりも港湾内係留ロープ



図2. えりも港湾南側平磯

分布する種がに付着していた原因として、港湾内では潮流がゆるやかで、係留ロープは陸と船をつなぐためある程度の長さや重さがあり、干満に関係なく常時水没していることが多いと考えられた。

係留ロープ上でのみ確認できたカラフトトロロコンブの主な分布は、網走や知床のオホーツク海から根室までの根室海峡であり、えりも周辺には自生しない種である。えりも港湾に分布する理由として、作

¹⁾ えりも町郷土資料館 〒058-0203 北海道幌泉郡えりも町字新浜207番地 erimomus@cocoa.ocn.ne.jp

²⁾ 北海道東海大学工学部生物工学科4年

表1. えりも町本町地区えりも港湾係留ロープ上において確認できた海藻

(調査日: 2005年8月13日)

	種名	分類	主な分布環境区分
1	ヒラアオノリ <i>Enteromorpha compressa</i> (Linnaeus) Nees	緑藻	潮間帯上部の岩
2	アナアオサ <i>Ulva pertusa</i> Kjellman	緑藻	潮間帯の岩上
3	ナガアオサ <i>Ulva arasakii</i> Chihara	緑藻	潮間帯中部から下部の岩上
4	ピラエラ <i>Pikayella littoralis</i> (Linnaeus) Kjellman	褐藻	潮間帯上部の岩上
5	ヒバマタ <i>Fucus distichus</i> subs. <i>evanescens</i> (C. Agardh) Powell	褐藻	平磯などの潮間帯
6	カラフトトロロコンブ <i>Laminaria sachalinensis</i> Miyabe	褐藻	水深1-7mの海底
7	ツルツル <i>Grateloupia turuturu</i> Yamada	紅藻	潮間帯下部の岩上
8	アカバギンナンソウ <i>Mazzaella japonica</i> (Mikami) Hommersand	紅藻	潮間帯下部の岩礁
9	クロバギンナンソウ <i>Chondrus yendoi</i> Yamada et Mikami	紅藻	潮間帯下部の静穏な岩上
10	ダルス <i>Palmaria palmata</i> (Linnaeus) Kuntze	紅藻	潮下帯の下部の岩上
11	イギス <i>Ceramium kondoi</i> Yendo	紅藻	潮下帯の岩や他の海藻に着生

表2. えりも町本町地区えりも港湾南側平磯潮間帯において確認できた海藻

(調査日: 2005年8月18日)

	種名	分類	主な分布環境区分
1	アナアオサ <i>Ulva pertusa</i> Kjellman	緑藻	潮間帯の岩上
2	タマジユズモ <i>Chaetomorpha moniligera</i> Kjellman	緑藻	潮間帯下部
3	ツヤナシシオグサ <i>Cladophora opaca</i> Sakai	緑藻	潮間帯の上部
4	マツモ <i>Analipus japonicus</i> (Harvey) Wynne	褐藻	潮間帯中部の岩上や貝の上
5	ミツイシコンブ <i>Laminaria angustata</i> Kjellman	褐藻	低潮線付近から水深10m位までの岩盤
6	ヒバマタ <i>Fucus distichus subs. evanescens</i> (C. Agardh) Powell	褐藻	平磯などの潮間帯
7	エゾイシゲ <i>Silvetia babingtonii</i> (Hervey) Serrao et al.	褐藻	比較的波あたりの強い潮間帯中部の岩礁
8	ウミトラノオ <i>Sargassum thunbergii</i> (Mertens ex Roth) Kuntze	褐藻	潮間帯中部から下部の岩上
9	モカサ <i>Pneophyllum zostericola</i> (Foslie) Kloczcova	紅藻	スガモ上
10	ヒライボ <i>Lithophyllum okamurae</i> Foslie	紅藻	潮間帯下部から漸深帯の岩上や小石の上
11	イソキリ <i>Bossiella cretacea</i> (Postels et Ruprecht) Johansen	紅藻	低潮線下の岩
12	ピリヒバ <i>Collarina pilulifera</i> Postels et Ruprecht	紅藻	潮間帯下部
13	フノリ <i>Gloiopeltis furcata</i> (Postels et Ruprecht) J. Agardh	紅藻	潮間帯上部の岩上
14	アカバギンナンソウ <i>Mazzaella japonica</i> (Mikami) Hommersand	紅藻	潮間帯下部の岩礁
15	クロハギンナンソウ <i>Chondrus yendoi</i> Yamada et Mikami	紅藻	潮間帯下部
16	キブリティグサ <i>Neosiphonia japonica</i> (Harvey) Kim et Lee	紅藻	岩または他の海藻上に着生
17	フジマツモ <i>Neorhodomela aculeata</i> (Perestenko) Masuda	紅藻	潮間帯下部
18	オオソゾ <i>Laurencia glandulifera</i> Kutzing	紅藻	低潮線付近の岩
19	スガモ <i>Phyllospadix iwatensis</i> MAKINO	単子葉植物	潮間帯下部から潮下帯にかけての岩上

業船などの船体に成葉が付着し移動してきた、または、バラスト水に胞子が含まれたと推測される。成葉および幼葉が確認できたことから、カラフトトロロコンブがえりも港湾内で再生産されていた(川嶋、未発表)ことを、再確認することができた。

また、2005年8月27日オホーツク海沿岸斜里町知布泊漁港において、港内岸壁および係留ロープ上のカラフトトロロコンブを採取し、えりも港湾内の係留ロープ上の同種標本と比較したところ、形態的に類似していた(図3.)。

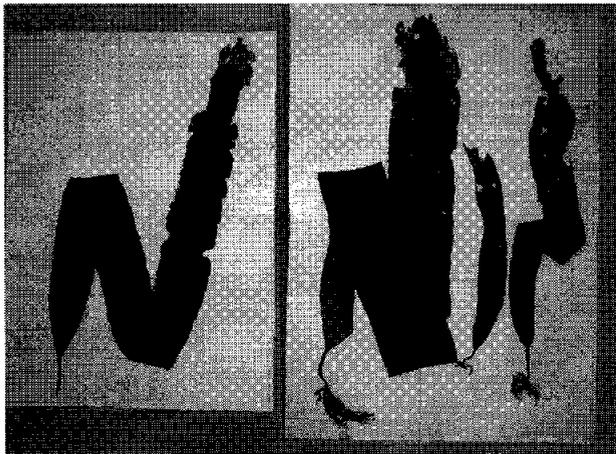


図3. カラフトトロロコンブ
左：えりも港湾内係留ロープ上より採集
右：斜里町知布漁港内係留ロープ上より採集

港湾内では、コンブ漁で採取されるミツイシコンブを、採取後に悪天候の際「つけコンブ」として、生のまま海水につけておくことがあるが、今回の調査では、係留ロープ上にミツイシコンブを確認することができなかった。係留ロープ上にカラフトトロロコンブのみ生育する原因について、今後詳しい調査が必要である。

カラフトトロロコンブに関する助言、本稿執筆に当たりご指導をいただいた川嶋昭二氏に感謝申し上げます。

参考図書

- 千原光雄(1983)「学研生物図鑑 海藻」. 株式会社学習研究社. (1996改訂第4刷)
- 北海道(1978)「第2回自然環境保全基礎調査 海域生物調査報告書」. 北海道.
- 北海道生物教育会(1997)「北海道の磯の生物たち～海辺の生態観察ガイド」. 北海道生物教育会.
- 川嶋昭二(1993)「日本産コンブ類図鑑」. 北日本海洋センター. (改訂普及版)
- 瀬川宗吉(1956)「原色日本海藻図鑑」. 保育社. (1991増補7刷)
- 高橋誼(1982)「みついしの磯の生物」三石町教育委員会.

参考ホームページ

「北の海藻図鑑」

<http://www.ne.jp/asahi/marine/algae/index.html>
(2006年1月現在)